

町内の農業や観光に活用

超小型モビリティお披露目

東北運輸局より町内での走行が認められた、環境に優しい電気自動車「超小型モビリティ」の導入を受け4月17日、季の郷湯ら里を会場に導入した3台のお披露目式が開かれました。

お披露目式では、主催者である只見町超小型モビリティ導入推進協議会の三瓶清志会長が「超小型モビリティは、只見ユネスコエコパークの理念に沿った環境保全と活用に役立つ」と挨拶され、日産自動車(株)よりゴールデンキーの贈呈を受けました。その後菅家町長と協議会メンバーが運転し、超小型モビリティ3台の走行が披露されました。

2人乗りの超小型モビリティは只見町の方言でかわいいの意味と英語を掛けた「me-go(めご)」と名付けられ、3台の内2台は協議会メンバーの農家が使い、電動草刈り機を接続して充電に利用するなど電動化による農作業の効率化を推進し、また会津大学と共同で草取りロボットの実証実験も行っています。残り1台は協議会メンバーである只見町観光まちづくり協会により、観光客の移動手段やイベントなどでの活用を想定しています。



▲来場者約100名に披露された超小型モビリティ愛称「me-go(めご)」

原材料オール只見産のこだわり米焼酎 「ねっか」販売開始！！



▲挨拶をする「合同会社ねっか」の皆さん

只見産米と町内の水を使ったご当地米焼酎「ねっか」が4月17日に発売開始となりました。町内の農家で作る「合同会社ねっか」は、30～50代の農家5人で昨年7月に発足。米の付加価値を上げ、雇用創出と田畑を守る好循環を作り地域の活性化につなげようと焼酎づくりを企画し、特産品を原料にすることなどを条件にした国税庁の「特産品しょうちゅう製造免許」を今年1月24日に県内で初めて取得。空き家を利用した蒸留所で米焼酎の製造を開始し、2千本を初出荷しました。焼酎は只見産米を100%使用し、フルーティーな香りとすっきりした飲み口が特徴となっています。



▲発売になった米焼酎ねっかを手にする脇坂代表

同日、季の郷湯ら里で行われたお披露目会には、関係者など約100名が参加し、菅家町長は「米焼酎ねっかを多くの人に飲んでほしい」と話し、同社の脇坂齊弘代表は「米も水もパッケージもオール只見産で造った米焼酎。役員一同おいしい焼酎づくりに励んでいく」と挨拶されました。

自衛官募集相談員

中野大徳さん(叶津)が就任

4月24日、町役場において「自衛官募集相談員委嘱式」が行われ、中野大徳さんが就任されました。

委嘱式では、菅家町長と自衛隊福島地方協力本部の須賀川進副本部長により委嘱状が中野さんへ手渡され、菅家町長は「只見町の情報を発信して行って下さい」と挨拶し、須賀川副本部長は「自衛官希望者の数が減っている。只見町の情報をお願いしたい」と話されました。

中野さんの任期は、平成29年4月1日から2年間で自衛隊への募集活動や自衛官希望者の情報提供などを行っていきます。



▲委嘱状を手にする中野さん(中)

山村教育留学生 第16期生

対面式で夢や目標を発表

4月10日、教育委員会(旧只見中)で山村教育留学生第16期生と町関係者との対面式が行われました。今年度は増設した奥会津学習センターの完成による受入拡張により、過去最高の19名が留学生となりました。

対面式では齋藤教育長が「何度倒れても立ち上がる会津の起き上がり子法師のようになってください」と挨拶し、留学生の自己紹介では「将来介護福祉士になって只見町で働きたい」、「昨年留学生だった先輩が只見町職員になった。私も目指したい」など将来只見町で働きたいという抱負が聞かれました。



▲対面式で夢や目標を発表した山村教育留学生19名

消防団活動の理解を深める

明和小学校で消防団活動を学ぶ

4月24日、明和小学校4年生の授業において、「火事からくらしを守る」をテーマにした社会科学習が行われ、小林地区の消防団員4名が講師として訪れました。

授業では、消防団から活動内容や消防署との違い、火災現場での対応などについて説明があり、その後生徒たちと一緒に放水体験や消防車両の見学を行いました。今回の授業をとおり、4年生10名全員からは「将来消防団に入りたい」などとの感想が聞かれ、消防団活動の理解を深めました。



▲放水体験を行う児童と消防団の皆さん

平成29年度 子ども読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰 「只見町読書活動ボランティア」が受彰！

4月23日、文部科学省などが主催する「平成29年度子どもの読書活動推進フォーラム」が東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれ、只見町読書活動ボランティアが「子ども読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」を受けました。この表彰は、子どもが読書意欲を高める活動に対し、優れた実践を行っている学校・図書館・団体（個人）を文部科学大臣が表彰しているものです。本年度の団体表彰は全国49団体で、福島県からは只見町読書活動ボランティアが唯一選ばれました。

表彰を受けた只見町読書活動ボランティアの皆さんは、4月25日に菅家町長を訪れ、「長年にわたり地道に活動した成果であり、諸先輩方に感謝します」と喜びを報告しました。町長は「ここからがスタートであり、今後も頑張ってもらいたい」と祝辞を述べました。



▲菅家町長（右）へ報告した只見町読書活動ボランティアの大山ミツコさん（中）鈴木サナエさん（中右）菅家成美さん（中左）齋藤教育長（左）

ブナセンター長、只見ユネスコエコパーク推進専門監の委嘱 新体制で只見ユネスコエコパークを推進



▲委嘱を受けた新国勇さん（中左）と鈴木和次郎さん（中右）、委嘱した菅家町長（左）と橋本副町長（右）

4月、只見ユネスコエコパークを推進するためのブナセンター長に新国勇さん、只見ユネスコエコパーク推進専門監に鈴木和次郎さんが就任されました。

ブナセンター長は、只見ユネスコエコパークの推進組織である只見町ブナセンターの包括的な管理運営、監督を行うとともに「ただみ・ブナと川のミュージアム」や「ふるさと館田子倉」の展示等に学術的な指導、助言を行います。只見ユネスコエコパーク推進専門監は、ユネスコエコパーク推進のため町への提案・助言などを行います。

任期は平成30年3月31日までで、只見ユネスコエコパーク推進のために活動していきます。

只見町小川地区 「小川いきいきサロン」10年目の開講

4月23日、今年でサロン開所10周年を迎えた「小川いきいきサロン」が小川集会施設で開催され、地域住民約60名が参加しました。

サロンでは最初に開所式が行われ、関係者や地域住民とともに10周年を祝い、その後健康維持を目的とした体操やバイキング形式の昼食会などが行われ、参加者は仲間と一緒に楽しい時間を過ごしました。

今後サロンは月1回開催し、住民とともに様々な行事に取り組んでいきます。



▲バイキング形式の昼食を楽しむ参加者の皆さん

華麗な舞を披露！

第16回春待ちチャリティ演芸会

4月9日、季の郷湯ら里で「春待ちチャリティ演芸会」が開かれ、約160名が来場しました。

演芸会の冒頭、事務局の赤塚ミワさんから演芸会の収益金129,495円を菅家町長へ「社会福祉などに役立てて下さい」と手渡され、受け取った菅家町長は「これまで100万を超える金額を町に寄付され、感謝申し上げます」と述べました。

その後、町内外から参加した愛好者による36演目が披露され、その華麗な踊りに会場からは大きな拍手が送られました。



▲会場を埋め尽くす来場者の前で、華麗に舞う角田春さん

新しいお友達が入所しました

町内各保育所で入所式



▲(写真/明和保育所)一緒に歌って踊る児童の皆さん

4月5日、町内の各保育所で新しい入所児童を迎え入所式が行われました。

明和保育所の入所式では、さくら組、ひまわり組、たんぽぽ組、つくし組の入所児童全員の紹介が行われ、名前を呼ばれた児童は元気に返事をしていました。入所式終了後には職員による演劇が披露され、児童たちは楽しい時間を過ごしました。

今年度の児童数は、只見保育所31名、朝日保育所30名、明和保育所34名となっています。

新たな社会福祉施設の建設始まる

「グループホームこまどり荘」地鎮祭

只見町長浜地区に建設する障がい者向けグループホームの地鎮祭が4月17日に行われました。グループホームの建設及び運営は、南会津町の社会福祉法人南陽会が行い、施設の名称を「グループホームこまどり荘」とする予定です。今年10月に開所の予定で、定員は7名となります。

地鎮祭には約20名が出席し、星太治南陽会理事長がくわ入れを行い、玉串をささげ、工事の安全を祈願しました。



▲くわ入れを行う星太治理事長